

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006～2010

課題番号：18330138

研究課題名 (和文) 批判的思考の認知的基礎と教育実践

研究課題名 (英文) Cognitive components of critical thinking and educational practice

研究代表者

楠見 孝 (KUSUMI TAKASHI)

京都大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：70195444

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：批判的思考, 推論, 科学リテラシー, 大学教育, 文章理解, メディアリテラシー, メタ認知, 授業研究

## 1. 研究計画の概要

(1) 批判的思考の認知的基礎の研究として, その構成要素とプロセス, および日常生活や読解, 学習などの文脈におけるコントロールメカニズムを明らかにする. 実験・調査では, 広告, リスク認知, マスメディア, 情報モラルなどの具体的領域をとりあげて実施する. あわせて, 批判的思考の文化的文脈についての検討を行うために, 日本とタイ, ニュージーランド, 米国の大学生の比較研究を行う.

(2) 批判的思考の能力・スキル・態度を多角的に測定するツールの開発し, 実験や教育実践に用いて, その信頼性と妥当性を検討する.

(3) 批判的思考の教育実践の研究として, 批判的思考教育プログラムを作成し, その教育実践の効果を検討する. 特に, 高等教育に焦点を当てて, リフレクション・プラクティス, 質問, 学習者インタラクションを導入した実践を, 大学導入教育, 教養教育, 専門教育, 教職教育において実践を行う.

以上の3つの柱に基づいて, 6人の研究代表者・分担研究者が4名の研究協力者とともに, 共同研究をすすめる. あわせて, 批判的思考に関するワークショップ, 講演会, 学会におけるシンポジウムを開催し, 研究成果を外部の研究者, 教育実践者に公表するとともに, フィードバックを受ける.

## 2. 研究の進捗状況

(1) 批判的思考の認知的基礎の研究として, そのプロセスおよび日常生活や学習などの文脈におけるコントロールメカニズムを明らかにする実験と調査を進めた.

①大学生を対象とした実験によって批判的思考の「使用判断」「実行」「表出」という3つのプロセスにおいて, 批判的思考が抑制・促進されるメカニズムを解明した. さらに, 批判的思考抑制パタンの国際比較調査を行い, 批判的思考の抑制・促進パターンにおける日本文化独特の要素と, 普遍的な要素を明らかにした. また, 批判的思考の国際比較調査のための調査項目の選定を行った.

②批判的思考態度が広告と商品の評価に影響を与えるプロセスを実験的に検討した. その結果, 高考慮商品の評価は, 広告への快情動ないし高い接触頻度によって, 商品属性情報の影響を強く受け, 商品属性情報の影響を強く受け, その傾向は批判的思考態度の高い参加者に顕著であった. また, 食品のリスクを題材にした実験・調査を行い, 批判的思考が食品リスクリテラシーを高めることを明らかにした.

③児童生徒の情報モラルと批判的思考に関する実態調査を行ない, 情報モラルの中でも, 全般的な情報活用の実践力については, 中学生の方が小学生よりも高く, とりわけ, 情報活用の実践力の中でも「収集力」「判断力」「処理力」について, 中学生の方が小学生よりも高いことを明らかにした.

(2) 批判的思考の能力・スキル・態度を多角的に測定するツールの開発を進めた.

①批判的思考の測定については, 平山・楠見(2004)の項目を改訂し, 大学生に対する予備調査によって, 妥当性・信頼性を確認した上で, 一般市民男女1500名に実施し, 学歴などとの相関を見出した.

②批判的思考のスキルの測定については、批判的思考の学習スキルに関する項目を開発し、高校生と大学生に対して実施し、信頼性・妥当性を検討し、批判的思考態度との関連を明らかにした。

③批判的思考の能力に関する尺度については、認知プロセス（明確化、推論、評価）に対応させて開発を進めた。あわせて、科学リテラシー、リスクリテラシー、心理学リテラシーなどの領域に対応した尺度を開発して、批判的思考態度尺度との相関を明らかにした。

(3) 批判的思考の教育実践研究として、大学、高校での実践研究とインタビュー調査を行った。

①大学の導入教育、教養教育、専門教育、教職教育において、質問作成、リフレクション・プラクティス、討論や e-Learning を活用した学習者間のインタラクションなどに焦点を当てた異なるタイプの実践を行なった。そして事前-事後に、批判的思考の態度、スキル等を測定し、どのような力がどのように向上するかについて、量的・質的に検討した。

②高校国語科の批判的読解指導の授業実践研究を行った。個人の批判的読み、協同学習による読みの交流、クラス全体の批判的読みの共有という 3 つのステップにおける生徒-教師の発言の相互作用を明らかにし、批判的思考態度、読解リテラシーの向上を明らかにした。

③米国およびオーストラリアのスクールカウンセリングのシステムと教育実践プログラムの内容について、スクールカウンセラーに対して、インタビュー調査を行った。そして、批判的思考と、ソーシャル・エモーション教育、セルフコントロール教育プログラムなどとの関連を検討した。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している  
(理由)

研究計画にしたがって、3つの柱に基づいた実験・調査・実践研究は順調に進み、論文、学会発表などによる成果を公表している。また、研究会、ワークショップ、学会におけるシンポジウムをコンスタントに開催し、相互の情報交換を行うとともに、外部に向けて成果を発信している。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) ①批判的思考の認知的基礎の研究としては、その構成要素とプロセス、および多様な文脈におけるコントロールメカニズムについてこれまで研究結果を統合し、とくに、これまで研究を進めてきた広告、マスメディア、リスク認知、情報倫理などの領域については

発展的な実験・調査を実施するとともに、(3)の教育プログラムに活かすための指針をまとめる。②ニュージーランド、タイ、米国など異なる文化的文脈において、批判的思考のプロセスとコントロールメカニズムについて、比較調査をおこない、文化普遍的な認知プロセスと文化依存的な認知プロセスを解明する。

(2) 批判的思考の能力・スキル・態度を多角的に測定するツールについては、より多くの受検者に実施をして、項目の洗練を進め、完成させる。そして研究者、教育実践者に向けて公開する。さらに、(1)のモデルに基づいて、尺度の相互関連を検討する。

(3) 批判的思考の教育実践の研究として、(2)のツールを用いた効果測定を進め、(1)のモデル化に立脚した批判的思考教育プログラムを作成する。さらに、この批判的教育プログラムを書籍などの形で多くの教育実践者にむけて公開する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 23 件)

1. 道田泰司 (2008) メタ認知の働きで批判的思考が深まる 現代のエスプリ 497, 59-67. 査読無
2. 田中優子・楠見孝 (2007) 批判的思考の使用判断に及ぼす目標と文脈の効果 教育心理学研究, 55(4), 514-525. 査読有
3. 武田明典・村瀬公胤・会沢信彦・楠見孝 (2007) 大学教育におけるリフレクションを促す授業実践: 教職教育の事例から 教員養成学研究, 3, 23-34. 査読有

[学会発表] (計 42 件)

1. 楠見孝・道田泰司・沖林洋平・田中優子・子安増生 (2009) ラウンドテーブル「批判的思考力の育成のための教育実践と認知的基礎」第 15 回大学教育研究フォーラム 2009 年 3 月 21 日 京都大学

[図書] (計 2 件)

1. 楠見孝 (2007) 批判的思考とメタファ的思考 稲垣佳世子ほか(編) 新訂認知過程研究: 知識の獲得とその利用 放送大学教育振興会 Pp. 153-168

[産業財産権] 該当無し

[その他]

研究内容に関する Web ページ

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/personal/Kusumi/ct.htm>